

## 重要文化財【桑野遺跡出土品】夏季特別展示

— 石製装身具類の色・いろ —

あわら市郷土歴史資料館  
特別展示室

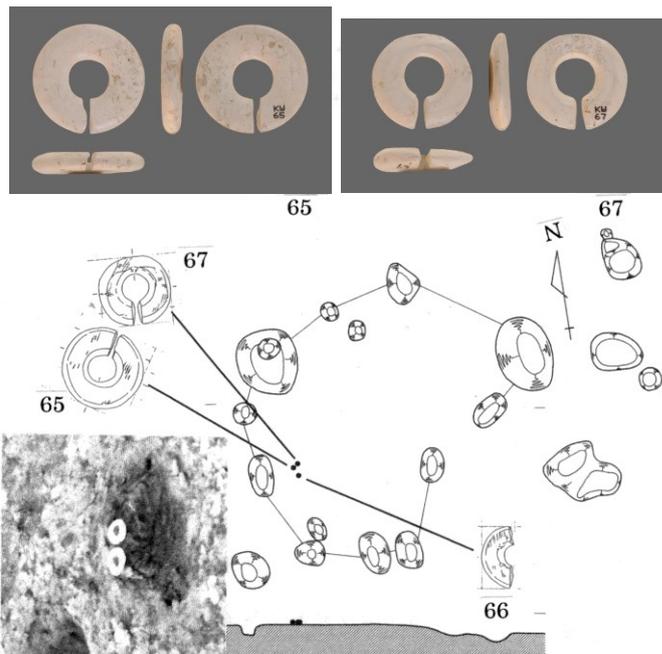
平成 24 年 9 月 6 日、[重要文化財／考古資料] に指定された「福井県桑野遺跡出土品」は、桑野遺跡から出土した縄文時代早期末から前期前葉を主とする出土品一括です。

指定品は、玦状耳飾などの石製装身具を主体とする石器・石製品、合計 85 点から構成（他に附として水晶原石 1 点加わる）されています。出土品の多くは原位置に近い状態で出土、特に玦状耳飾は素材・製作技法などを対で揃えた事例が多くみられます。それらは縄文時代の人々の装身や葬送儀礼を復元する上で重要であり、わが国を代表する出土品であるとともに、環日本海域に於ける縄文文化の特質と交流を解明する資料として、その学術的価値は極めて高いものと評価されました。

平成 28 年度春季展示では、桑野遺跡から出土した石製装身具に様々なバリエーションがみられることを紹介しました。今回の夏季展示では、玦状耳飾を中心に使用されている石材、特にその色に注目してみました。

### 《白色系石材》 手前：黄緑フェルト敷

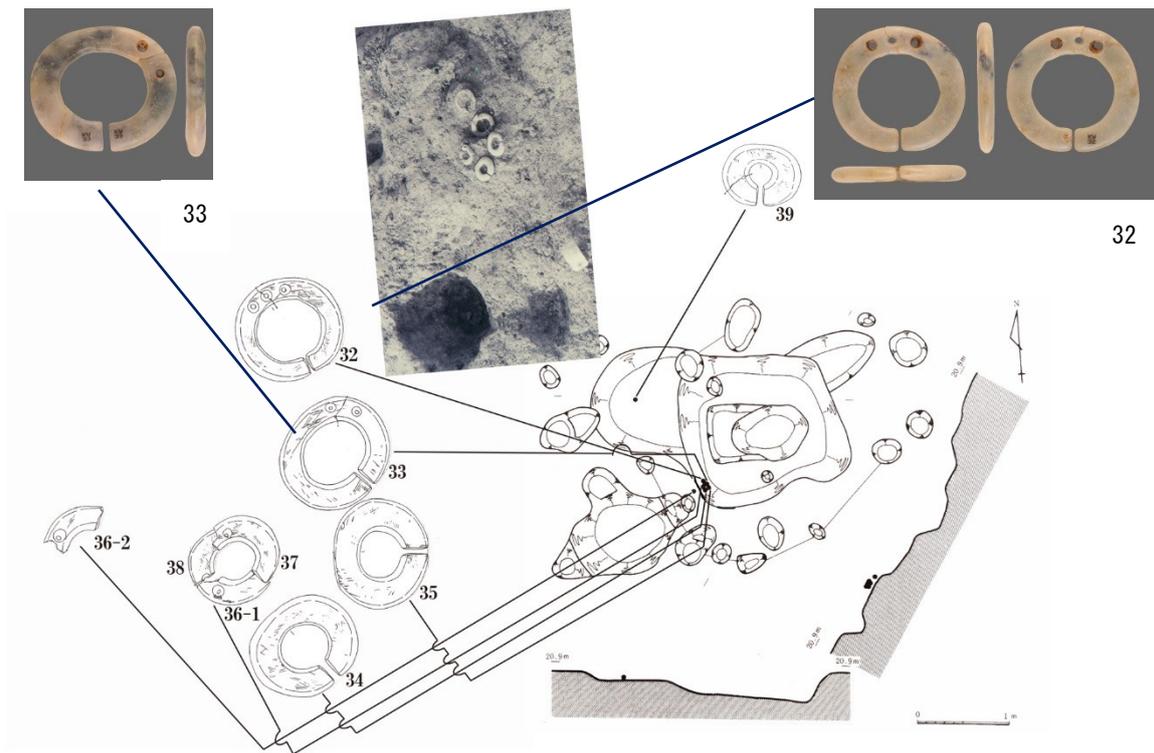
桑野遺跡出土の石製装身具類の中から、ここでは、主として中国東北部で産出する石材と類似する白色を呈するものを主に抽出してみました。



第 1 図 23 号土壌

まず、玦状耳飾についてですが、上段左側に展示した 2 点は、20 号土壌から出土した KW51（整理番号、以下全て同様、左側）と KW52（右側）です。どちらも白色ですが、KW51 には黒い斑点のようなものも多く見受けられるうえ、両者の中央部にある環孔の大きさが異なっています。

下段左側は、23 号土壌から出土した KW67 です。一緒に出土している完形の KW65、欠品の KW66 も同様に白色を呈しています。



第2図 14号土壌と15号土壌

下段右側のKW32（左側）とKW33（右側）は、14号土壌から対で出土したもので、白色系ではありますが前述の3点とは異なり、シミのようなものがある石材で、中国東北部よりもロシア・沿海州のチョルトヴィ・ボロタ出土例に類似しているようです。なお、KW32には、切目部正反に補修孔以外の穿孔が施されていることから、耳飾り以外の用途もしくは転用も考慮する必要があります。

上段右側のKW56は、20号土壌から出土した<sup>へらじょうすいしよく</sup>筥状垂飾です。上部と思われる細い方に有孔があり、吊り下げてペンダントのように使用していたと考えられます。横断面が窪む特異な形状は、靴へらに類似しますが、本遺跡から出土した筥状垂飾はどれも同様な形状を示し、日本列島にはあまり類例がありませんが、大陸では類似するものが出土しています。桑野遺跡からは破片も含めて筥状垂飾が計5点出土していますが、KW56はその中で最も白色を呈するものです。

《黄褐色系石材（滑石）<sup>かつせき</sup>》中央：紺フェルト敷

ここには、桑野遺跡の石製装身具中では多数派となる主に黄褐色もしくは茶褐色を呈するものを抽出してみました。石材分析したわけでないため、確定ではありませんが、いわゆる滑石と考えられています。

まず、玦状耳飾について個別に見ていくと、上段左側のKW46は、遺構に伴うものではなく、発掘調査の基準となる東西Aa～Xx、南北1～29で区割設定した5m四方の方形区画（グリッド）のM21グリッド中の16号土壌の北方82cmの遺構確認面から約10cm上位で出土しています。このグループ中では珍しく澄んだ色をしています。

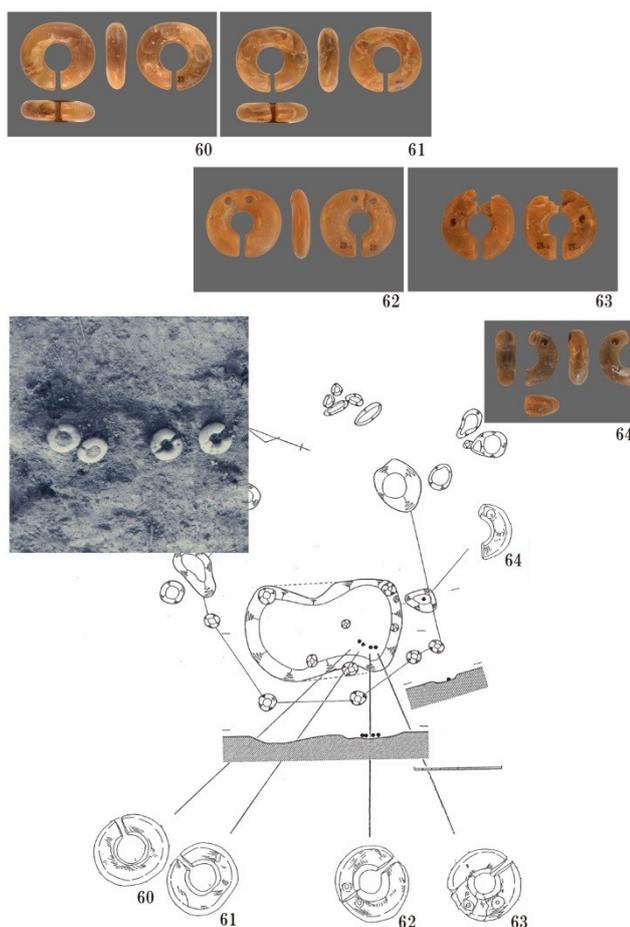
上段右側は、20号土壙から出土したKW54です。この20号土壙からは、前述した白色系石材（KW51・52）も一緒に検出されています。

中段は、21号土壙からセットで出土したKW60（左側）とKW61（右側）です。ここからは、欠品1を含む計5点が出土していますが、全て滑石製となっており、20号土壙とは異なる組成となっています。

下段左側は、26号土壙から出土したKW73です。

下段中央は、m～N21のベルト内（土層を観察するために残した畔）から検出されたKW81です。

下段右側は、管玉（KW4）で2号土壙から出土しています。管玉は計3点検出されましたが、1点は24号土壙から出土した白色系、もう1点は20号土壙から出土した同じ滑石系のものですが、方形を呈し刺突文が施されているなど、異なる様相を示しています。



第3図 21号土壙

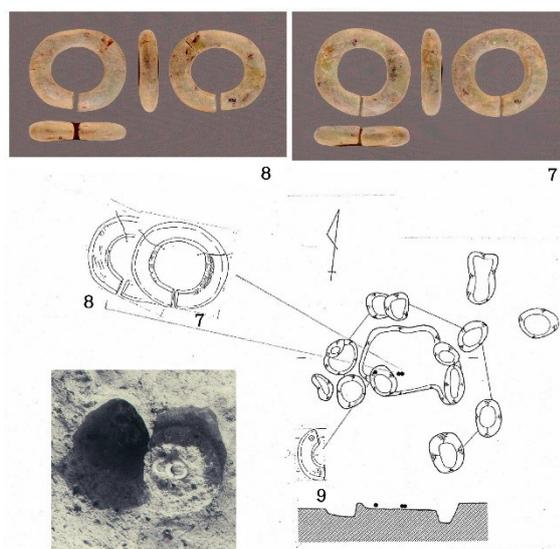
### 《オリーブ（緑色）系石材》奥：<sup>えんじ</sup>臙脂フェルト敷

ここには、オリーブ色・緑色系を呈する塊状耳飾を主として配置しました。

平成27年夏季特別展示で、カゴ田類材品を中心にと題して、展示を行いました。その際に長野県カゴ田遺跡出土品と類似する石材を使用したと判断されるものを抽出しています。

上段左側は、4号遺構から対で出土したKW7とKW8です。第4図にあるとおり、KW8を下位に一部重なるように出土しています。これまでに紹介してきたものとは異なり、やや緑がかった石材が使われていることがよくわかるかと思えます。

中段左側は、8号土壙から出土したKW24（左側）とKW25（右側）で、同じ石材



第4図 4号遺構

を使用していると見られますが、その形状はかなり異なります。若干大きめのKW25を下位に、重複して検出しました。

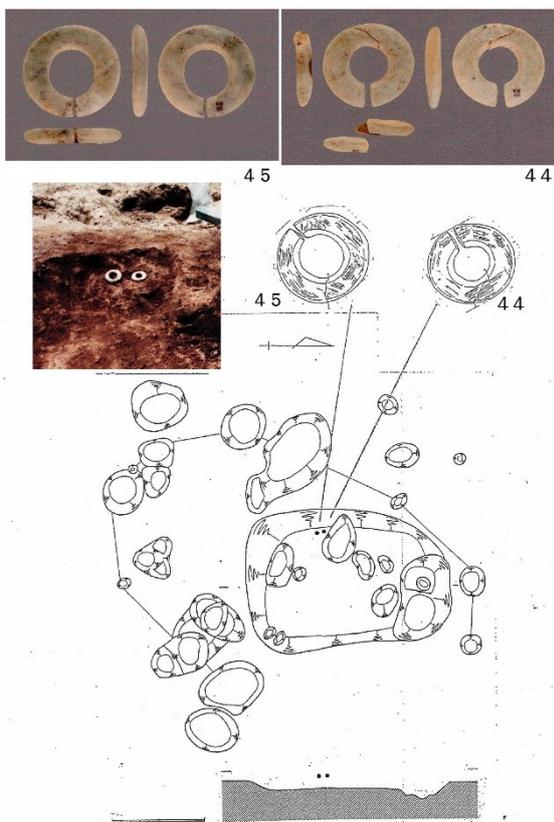
下段左側は、第5図のとおり、17号土壙から並置された状態で検出したKW44とKW45です。

これら左側の3対の玦状耳飾は、類似の長野県カゴ田遺跡出土品の石質が、『長野県史』で大部分が滑石とされましたが、中国の軟玉（ネフライト）にも類似するなど、石材を同定するには、非常に困難な状況といえます。

下段右側は、20号土壙から出土した篋状垂飾（KW57）です。白色系として先に紹介した同じ20号土壙から検出されたKW56と比較するとやや緑がかかっています。

最後に上段右側のKW86は、18号土壙中の附属ピット（小穴）から出土した水晶です。人の手で加工された形跡がないため、石製品ではなく、水晶原石として重要文化財には含まれず、その附となっています。とはいえ、遺構に伴って出土していることから、現代でいう宝石や魔除けなど、何らかの意味合いがあったものと思われます。

以上、桑野遺跡から出土した石製装身具の色・いろについて紹介しました。（橋本）



第5図 17号土壙



第6図 カゴ田例（飯島町教委 1978）

<出展品> 計 21点

・玦状耳飾 17点

・篋状垂飾 2点

・管玉 1点

・水晶原石 1点

重要文化財【桑野遺跡出土品】夏季特別展示 — 石製装身具類の色・いろ —

展示期間 : 平成28年7月5日（火曜日）～8月21日（日曜日）

あわらし郷土歴史資料館

919-0632 福井県あわらし市春宮二丁目 14-1 金津本陣 IKOSSA2 階

Tel : 0776-73-5158 Fax : 0776-73-1038